

二宮町立二宮西中学校

研究テーマ：9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通じた、
「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方(3年次)

1 実践の目的

二宮町では、令和5年4月より町内すべての学校が1つの施設分離型小中一貫教育校『にのみや学園』となった。学園の開校に向けて、にのみや学園の教職員全員の願いや想いを紡ぎ、教育目標を次の通り定めた。

『認め合い 高め合う 二宮の子』

この教育目標を実現するために、子ども同士の学び合いや話し合いを中心とした授業づくりに学園全体で共通性と一貫性をもって取り組んでいる。学級づくりの基盤や学習の進め方を揃えることで、子どもたちが安心して学んだり、進級したりできるようにするとともに、9年間を見通して子どもたちに必要な資質・能力の育成を図ることができると考える。

子どもたちに育みたい資質・能力を学園内で共通理解を図り、授業づくりを進めることを大事にしている。

二宮町で育みたい汎用的な資質・能力		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
①主体的に継続して勉強する	①必要な情報を集めて分析する	①多様な価値感の仲間を増やす
②多様な学びで知識を吸収する	②状況に応じて適切に判断する	②互いの違いを認め高め合う
③知識を応用して上手に使う	③論理的で柔軟に思考する	③諦めずに自分の夢をかなえる
	④自分の考えを正しく伝える	

授業づくりでは、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を意識し、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力・人間性を一体的に育てて

いくための授業改善を図ることを意識している。

特に、3年次となる令和5年度においては、学びに向かう力を高めていくために、以下の内容も研究の視点に加えて取り組んだ。

- ・習得の授業における子どもの主体性
- ・日常生活や学校生活との関連付け
- ・学習活動や単元全体の目的意識の共有

2 実践の内容

(1) 研究体制

今年度も引き続き、教育力向上アドバイザー吉新一之氏（元川崎市立川崎小学校長）を講師に迎え、指導・助言を仰いでいる。

(2) 研究授業、研究協議の様子

研究授業について、第1回目の研究授業では、英語の授業（2年1組）を行った。現在の2年生は、小学校より二宮町が志向する「クラス全員での話し合いの授業」を実施しているため、スムーズにグループでの話し合いを行うことができていた。苦手な生徒に対し、グループ内で知識を伝達して解決に向かおうという生徒の姿勢や、発問をレベル別に提示して学習に向かう力を育てようとする教師の工夫が見られた。

第2回目の研究授業では、道徳の授業（1年2組）を行った。あるクラスでトラブルが起きたことに対し、どのように対処していくか、という課題に対し、生徒は物語を通し自分のこととしてトラブルをとらえ、その

解決に向けて意見を出していた。その中で、他の意見と自分の意見を比較・検討し、よりよいアイデアをつくっていく、集団での話し合い活動が行われていた。

第1回・第2回の研究授業の後の協議会では、教師が生徒役・研究主任が教師役になり、「今日の研究授業で考えたことを、明日からの自身の授業にどう生かすか」というテーマで、「話し合い」を行った。教師が生徒役になることで、「話し合いの授業」における思考の連続性や、皆で一つのことを考える楽しさを実感することができた一方、話し合いの授業に参加できない生徒への対応の難しさや話すことに対して苦手意識がある生徒の気持ちも実感することができた。

3 実践の成果

(1) 教師の変容

話し合いの授業について、校内で共通認識を持つことは困難であった。話し合いの授業について、実践して効果を実感している教師と、効果を実感しているが話し合いに授業時数が割けていない教師、効果に疑問を持つ教師が混在する状況である。特に技能教科の担当は、1週あたりの授業数が少ないため、話し合いに時間が割けない、と考えている教師が多い。しかし、校内研修を通して話し合いの授業を実践し、その効果を実感している教師も存在する。

(2) 子どもの変容

本校が行っている学習アンケートによると、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」という質問に対し、肯定的な回答が5月から12月にかけて6%上昇した。学年が上がるにつれ話し合いが活発でなくなりやすい傾向にあることを踏まえる

と、現在行っている小学校時から話し合いの授業を通して自分の考えを深めたり広げたりすることは有効であると考えられる。

4 今後の展開

(1) 今後の課題

上記の通り、校内の教師で共通認識を持つことができていないことが大きな課題である。特に技能教科で、習得させるべき事項と授業時数のバランスを取りながら話し合いの授業を取り入れることの難しさを解消しなければ、校内で一丸となって取り組むことは難しいと考える。また、日常の業務に忙殺されるあまり、研究活動自体に対して消極的な教師も多いため、行事や会議、部活動などの日々の業務の見直しも必要だろう。

ただ、先述の通り話し合いの授業の効果を実感し、積極的に実践する教師が増えてきたことも事実である。また、来年度以降も、今年度と同じく小学校で話し合いの授業を経験してきている生徒が入学してくるので、話し合いの授業が行いやすくなる。そのため、来年度以降も徐々に話し合いの授業について取り組み、少しずつ話し合いの授業を行う教員が増えることを期待したい。

(2) 今後の研究について

来年度以降も二宮町の5校で統一しているテーマをもとに研究を行いながら、話し合いの授業について理解を深めようと考えている。小学校からのつながりを意識しながら、「(特に技能教科の)学習事項を習得させつつ話し合いの授業の時間を確保する手段」や「教師が積極的に研究に取り組めるための日々の業務改善」について、校内で理解を深めたい。また、教科の専門性の中でできる効果的な話し合いの授業への工夫改善を視野に入れ、研究体制を整えていきたい。